

道徳科学習指導案

主題名「けんきよな心で」〔学指要領：B 相互理解、寛容〕

令和5年11月14日（火） 第5校時 多目的室

I 主題設定の理由

1 価値観

本主題は、学習指導要領Bー（11）「相互理解・寛容」第5学年及び第6学年、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」を中心価値としている。高学年の時期になると、相手との違いをそれまで以上に意識するようになる。それに伴い、考えや意見の近いもの同士が接近し、そうでないものを遠ざけようとする行動が見られることがある。このようなことから、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが大切であり、相手の過ちなどに対して、謙虚な心、広い心で受け止め適切に対処できるようにしたいと考え、本主題を設定した。

2 児童（生徒）観

（削除）

3 教材観 教材名「約束」（出典：光文書院）

陽菜と結衣は週末に図書館で宿題をする約束をする。しかし、祖母が緊急搬送された結衣は、連絡もできず、約束の場所にも行けなかった。何も知らない陽菜は怒って、グループチャットで不満を漏らす。次の日、学校で結衣は謝罪しようとするも、陽菜は無視してしまう。しかし、家に帰り母から結衣の祖母の状況を聞いた陽菜は自分のしてしまったことの重大さに気付くというあらすじである。

- ・ 本教材は、母親から結衣の状況を聞いた場面での陽菜の気持ちを考える活動を通して、相手の話を素直に聞き、相手の立場に立って考えることで、互いの理解が深まることが分かり、誰に対しても謙虚で寛容な心で接していこうとする態度を育成することができる教材である。

4 人権教育との関わり

本授業を通じて、人権教育の重要課題における「インターネット等による人権侵害」に関係する学習として取り組んでいく。令和4年度のNTTドコモが運営するモバイル社会研究所の調査によると、スマートフォンの所有開始年齢は平均10.6歳と、数年前と比較して低下傾向にある。また、スマートフォンだけでなく、ゲーム機やテレビ、学校で配布されたタブレット端末などを通じて、インターネットを利用することができ、児童にとってインターネットは身近なものとなっている。電子機器などを通じてやりとりをする際には、文字だけの画面では、表現の仕方やイントネーションなどの細部が伝わらず、誤解からトラブルに発展してしまうこともある。それゆえに、相手の意見に素直に耳を傾け、そして自分とは異なる立場や意見を理解しようとする気持ちは、間接的なコミュニケーションにおいて、特に大切である。また、インターネットの大きな特徴である即時性が、人々が適切な判断を下すことの妨げとなる場合もある。このような情報化の影の部分への対応として、自他への影響を考えて行動することや有害情報への対応などの情報モラルをしっかりと教えることが重要である。

【育てたい能力・態度】

- 知性：SNSで発信することと、直接会って話すことの違いに気付き、配慮すべきことが分かる。
- 判断力：インターネット上でやりとりする際に、相手が目の前にいなくても、相手の立場で物事を考え、内容をよく精査してから発信するなど、公正・公平に判断し、発言や行動できる。

本授業では、道徳科の授業を要に前後において他教科等も関連させ、総合単元的な道徳を行うことで「インターネット等による人権侵害」に関する指導を充実させることとした。単元計画は以下の通りである。

	日時	学習活動
事前の活動	10月下旬	国語「意見が対立したときには」 意見が対立したときに、解決する方法や、言葉の伝え方を学ぶ。
	10月下旬	学活「情報モラル教室」 インターネット等による人権侵害や、SNSの基本的な知識を深める。
	11月上旬	アンケート実施 人との関わりについてのアンケートをとり、クラスの実態を把握する。
本時の学習		
事後の活動	11月下旬	家庭での話し合い 児童と保護者で、家庭でのSNSの使い方やルールについて話し合い、家庭との意識共有を図る。

II 本時の学習

1 ねらい 陽菜の行動の意図や、気持ちの変化を考える活動を通して、相手の意見を素直に聞き、相手の立場に立って考えることの価値に気づき、相互理解に努め、他者に対して寛容な心をもって接しようとする態度を育てる。

2 展開

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童(生徒)の反応 [S]	○指導上の留意点 【★ICT 活用に関する事項】
<p>1 アンケート結果をもとに、本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 (5分) 【★共有】</p> <p>S：相手の気持ちを考えなかったことが原因で友達を傷つけてしまったことがあるな。 S：トラブルはあっても人との関わりなしには生きていけないな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><めあて> 人との関わりで大切なことは何だろう。</p> </div>	<p>○クラスや自分の状況を確認できるように、事前にとったアンケートの内容と結果を提示する。 【★提示】</p> <p>○めあてについて考える必要性を感じられるように、アンケート結果より、人との関わりのおけるトラブルの原因を考える。 ○本時の教材を自分にとって、身近なものとして捉えることができるように、情報モラル教室の写真を提示したり、経験を共有したりする</p>
<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分)</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(15分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎「心臓がドキドキしたときの陽菜は、どのような気持ちだったのでしょうか。」</p> <p>S：どうしよう。 S：書き込まなければよかったな。 S：きちんと結衣の話を聞いていればよかった。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇「もっと早く解決するにはどうしたらよかったのでしょうか。」</p> </div>	<p>○児童全員が内容を理解し、道徳的価値を考えることができるように、物語の概要を確認する。 ○様々な気持ちに気付くことができるように、陽菜がどうしてグループトークに書き込んだのかを問う。その際「陽菜の中にあっただのは怒りだけかな。」とも問いかける。 ○陽菜がSNSに書き込んだ意図を考えることができるように、SNSで発信することと、直接会って話すことの違いを確認する。 ○中心発問では、多様な意見が出ると予想されるので、他者理解を図れるように、それぞれの意見についてどう思うかなどを問い、意見交流する。</p>

<p>S : SNS で発信しなければよかった。 S : きちんと話を聞いてあげればよかった。 4 教材文の続きを考える。(5分)</p> <p>5 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分) S : 相手の話をきちんと聞くことが大切だな。 S : 相手の気持ちが分かれば、けんかをして許し合えるな。</p>	<p>○SNS の使い方を正しく理解できるように、SNS で伝えることよさと、その他の手段を確認する。 ○陽菜がどのように誤解を解くかについて、児童が自分自身との関わりとして捉えることができるように、タブレット端末を用いて、現実に近い状況で疑似体験させる。【★発信】【★共有】 ○誤解を解くために、大切に考えたことを問うことで、相手を理解することの重要性に気付くことができるようにする。 ○本時で取り扱う道徳的価値について、一般化して考えることができるように、普段の生活のことを思い出すよう促す。</p>
<p>6 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(5分) 【★データの保存・提出】【★共有】</p>	<p>○より道徳的価値の高い行動や気持ちに気付くことができるように、意図的に指名をする。 【★一覧表示】【★発信】 ○インターネット等による人権侵害について考えを深めることができるよう、友達の振り返りにタブレット端末上でコメントをする機会を設定する。</p>
<p><振り返り> S : 友達と関わるときには、相手の話をよく聞いて、相手の立場に立つことが大切だと思った。けんかをしてしまったら自分の悪かったところを謝って、相手のことも許してあげたい。</p>	

◆評価の視点
発言や振り返りのカード等から、相手の意見を素直に聞き、相手の立場になって考えることについて、多面的・多角的に考えている姿を見取ったり、相互理解に努め、他者に対して寛容の心の大切さについて考えている姿を見取ったりする。

ムーブノートで児童に配布するカード



児童が送るメッセージの例

